

22. ^{201}Tl -SPECT による肺癌の治療効果判定

山路 滋 山崎 克人 北村 ゆり
松井美詠子 加納 恭子 井上 善夫
河野 通雄 (神戸大・放)

肺癌の保存的治療の効果判定における ^{201}Tl -SPECT の有用性を検討した。対象は原発性肺癌患者 26 例 (扁平上皮癌 14 例, 腺癌 7 例, 大細胞癌 1 例, 小細胞癌 4 例) で, 治療法は化学療法または放射線療法の併用もしくは単独である。おのおのの治療前後に ^{201}Tl を 259 MBq 静注し, 15 分後 (早期像), 3 時間後 (後期像) に SPECT を撮像した。横断像で腫瘍部と対側健常肺に ROI を設定し, おのおののカウント数を T, N とした。早期像, 後期像の T/N を Early Ratio (ER), Delayed Ratio (DR), (DR-ER)/ER を Retention Index (RI) とセタリウムの集積度の指標とした。治療前後の ER, DR, RI の変化と CT 上での腫瘍の縮小率には相関はなく, 集積度の変化は縮小率とは別の意味を持つと考えられた。治療終了後 3 か月以上経過観察できている症例で検討すると, 局所再発例では縮小率に比べ ER, DR, RI の変化が少なく, 無再発例では縮小率だけでなく ER, DR, RI の変化も大きく特に DR, RI の低下が著明であった。治療後の再発例と無再発例の RI の間には有意差が見られ ($p < 0.005$), ^{201}Tl -SPECT で得られた RI は早期再発の有無を推測するのに有用な指標であると考えられた。

23. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -PYP が集積した気道アミロイドーシスの 1 例

三崎 敏正 末吉 公三 彭 信義
松木 充 田淵耕次郎 中田 和伸
松井 律夫 足立 至 清水 雅史
榎林 勇 (大阪医大・放)

アミロイドーシスはアミロイドが臓器組織に沈着し機能障害を起こす原因不明の代謝性疾患で, 沈着臓器の範囲と程度により多彩な臨床症状を呈する。呼吸器に発症した限局性アミロイドーシスは比較的稀である。今回われわれは $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -PYP の集積をきたした気道アミロイドーシスの一例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告した。症例は 55 歳男性

で, 主訴は呼吸困難であった。胸部 X 線像にて, 気管から両側主気管支にかけて囊胞状拡張を認めた。CT では, 肺尖レベルにて, 気管の輪状軟骨の石灰化と気管壁の肥厚があり, 気管の変形も認めた。気管分岐部レベルでは両側気管支の囊胞状拡張を認めたが, 明らかな壁の肥厚像や石灰化は認めなかった。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -PYP によるシンチグラフィではプラナー像にて RI 集積像は判然とはしなかったが, SPECT 像では椎体と胸骨の間に気管の位置と一致して RI の集積像が認められた。生検結果では, 粘膜固有層に特定の構造を示さない弱好酸性を示す沈着物を認め, コンゴレッド染色では弱赤染し重屈折を示し, この反応は過マンガン酸カリウム処理で消失した。以上より沈着物質は, AA 蛋白アミロイドと考えられた。本症例はアミロイド沈着が気管気管支に限局しており Spencer の分類の II 型に分類される。また本症例は AA 蛋白アミロイドが検出されたが諸検査の結果限局性アミロイドーシスと考えられた。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -PYP のアミロイド組織への集積の機序は明らかではないが, CT にてアミロイド沈着組織の一部の気管気管支壁に石灰化が認められることから, 局所のカルシウム濃度の変化の存在が考えられている。

24. 縦隔原発神経芽腫の骨シンチ像

鈴木 英介 小田 淳郎 村田佳津子
真鍋 隆夫 田中 正博 辻田祐二良
山下 彰 (大阪市立総合医療セ・核)
永原 暹 (同・小児外)
越智 宏暢 (大阪市大・核)

今回われわれは縦隔原発神経芽腫 12 例の骨シンチ像を報告した。年齢は 6 か月から 6 歳 5 か月, 平均 1 歳半で性別は男児が 6 例, 女児が 6 例。stage 分類は I が 3 例, II が 7 例, III が 2 例。原発部位は, すべて後縦隔で, サイズは, 25×15 mm から 50×50 mm であった。骨シンチの陽性率は 12 例中 10 例 (83%) と高率であった。骨シンチで異常集積を見なかった 2 例は, ともに stage I で, 1 例は組織学的に大部分が, 神経節腫でありごく一部に神経節芽腫を含むものであった。もう 1 例は CT 上石灰化を有するものの small size (15×25 mm) のものであった。組織型別では神経芽腫の骨シンチ陽性率は 7 例中 6 例